

鋼管商社大手の住商メタルワン鋼管（本社＝東京都千代田区、桐畑竜典社長）はこのほど、住友グループが持つ歴史とその経営理念を体感し、その根幹にあるサステナビリティー経営の理解を深めるべく「別子銅山訪問研修」を行い、全国主要拠点の幹部クラスなど総勢13人が参加した。参加者は愛媛・松山空港に集合し、新居浜市にある広瀬歴史記念館、別子銅山記念館を訪問した後、翌日早朝から別子銅山への登山を行い、近代産業遺産群を見学した。

住商メタルワン鋼管

別子銅山訪問研修を開催

住友の歴史と理念学ぶ

同社一行は、日本の近代産業を育成した広瀬幸平が居住し、現在国の指定重要文化財として保存されている「旧広瀬邸」に隣接する広瀬歴史記念館を訪問。別子銅山の近代化の祖とされる広瀬氏の遠大なる計画と進取の気性を垣間見るとともに、旧広瀬邸では伝統的な日本建築様式の中に取り入れられた西洋文化との調和に心を動かされた様子だった。



別子銅山記念館や広瀬歴史記念館を訪問

続けて訪問したのが別子銅山記念館。同館は元禄3年（1690年）に住友家が露頭（銅鉱石）を発見した翌年に江戸幕府から発掘の許可を受け、1973年までの283年間、高品質の銅を産出し続けた別子銅山の歩みを細かく紹介している。見学した一行は当時の困難な状況から開発を進めた当事者たちへの思いをほせながら、銅山開発を契機に発展した新居浜市の歴史についても教養を深めた。

関連記事11面